

関西国際大学コミュニケーション研究所  
コミュニケーション研究叢書 第6集 (2008年2月)

シャドーイングトレーニングによる英語学習意欲向上

*The effects of shadowing training on arising motivation for English learning*

白木 智士

**Satoshi SHIRAKI**

安川 佳子

**Keiko YASUKAWA**

吉田 桂子

**Keiko YOSHIDA**

佐々木 緑

**Midori SASAKI**

## シャドーイングトレーニングによる英語学習意欲向上

白木 智士<sup>1</sup>

**Satoshi SHIRAKI**

安川 佳子<sup>2</sup>

**Keiko YASUKAWA**

吉田 桂子<sup>3</sup>

**Keiko YOSHIDA**

佐々木 緑

**Midori SASAKI**

### 1. はじめに<sup>4</sup>

発音指導には学習者の発声の反復練習が欠かせない。しかし教室内で発音指導を受ける折に与えられた語句を強制的に繰り返しているだけでは、モチベーションの低い学習者はすぐに興味を失って発音訓練を継続しなくなることが多い。大学進学者の学習意欲や学力低下が言われる中、学習者がひとりで簡単にかつ意欲的に取り組める効果的な発音練習法を提案することは英語教育における重要な課題の一つである。

近年注目されているシャドーイングトレーニングはモデル音声を聞きながら同じ音をモデル音声より少し遅れて口から発するという語学の練習方法である。学習者に大量の音声入力と大量の発声作業を同時に課すので、リスニングや発音の上達を促すとされている。しかし発音の訓練にはよいと言われている一方で、実際には発音習得の上でどのように効果が現れるのかはあまり研究されていない。また、シャドーイングトレーニングの授業への導入を動機付けの面から考察した研究もなされていないのが現状である。

---

1 本研究所共同研究員（関西国際大学非常勤講師）

2 本研究所共同研究員（関西国際大学非常勤講師）

3 本研究所共同研究員（関西国際大学非常勤講師）

4 本稿は、2007年8月7～9日に名古屋学院大学で開催された外国語教育メディア学会(LET)第47回全国研究大会に於いて行った研究発表をもとに、加筆・修正したものである。

## 2. シャドーイングトレーニングの効果

シャドーイングトレーニングは方法さえ覚えれば、学習者が授業外で取り組めるトレーニング法であるが、初心者にとってはモデルの音声を聞きながら、ほぼ同時に音声を真似て発声していくという作業は決して簡単だとはいえない。先に我々が行ったパイロット研究(佐々木他, 2006, 2007)でも、特に英語学習に関心が低い学生には、授業と関連づけながら上手く導入しなければ、授業外での継続的な取り組みはあまり期待できないことが報告されている。その反面、他の研究ではリスニングやリーディング、語彙獲得等においてもシャドーイングトレーニングは効果的であることが報告されている。シャドーイングを、学習者が授業外でも積極的に取り組めるような形で効果的に授業に導入する方法を提案できれば、発音指導だけでなく、語学教育全般に貢献できる。

## 3. 先行研究(佐々木他 2006, 2007)

先行する研究では次のようなシャドーイングトレーニングを行った。

トレーニングに入る前の週に Pre-Test を行い、学習者の発音の実態を測定した。この試験では用意された英語の文章や単語を読みテープに録音し、加えて自己紹介のような自発的発話も録音した。この際にシャドーイングトレーニングをシャドーイングトレーニングとはどのようなものか、どういう効果があるのかを伝えた。

次の授業時間からトレーニングを開始したが、シャドーイングトレーニングを実施する前に学生にシャドーイングトレーニングとはどのようにおこなうのか実際に前で実演してみせた。その後、授業時間毎にモデル音声に従ってシャドーイングトレーニングを行った。授業内ではトレーニングを強制し授業時間外では自主的トレーニングを促した。2005年の実験では4週間、2006年の実験では10週間のトレーニング後に Pre-Test とほぼ同じ問題の Post-Test を行い、テープに録音した。

2005年の際には毎回の授業内トレーニング開始時にテキストを配布し、内容を理解したかを確認してからトレーニングを開始した。2006年の際にはシャドーイングトレーニングを行うテキストの文字を見せず、内容の確認もせず授業時間内にモデル音声に合わせて発声するトレーニングのみを行い、授業外でもテキストを渡さずに、テキストを見ないシャドーイングトレーニングをするよう強制した。2006年の研究時にはテキストを渡さず意味の確認も行わなかったが、授業時間内のトレーニング時に学習者の一人ずつのトレーニングをモニタリングし教員がその場で簡単な評価を返したことと、学習者の声を録音し米語母国語話者によるフィードバックを行ったこと、の2点が学習者の英語へのモチベーションを保つためになされている。教材の読み上げ速度は2005年が一分間

に120語程度、2006年が一分間に100語程度であった。

Pre-Test と Post-Test とともに分節音や超分節的特徴(リズム、ポーズ、イントネーション)を2名の米語母国語話者が録音されたテープを元に5段階評価を行った。2名の採点を平均してその総和を各テストの成績とし、Post-Test の得点と Pre-Test の得点の差を最終的な成績とした。

2005年の研究では、トレーニングは関西国際大学1年対象の必修英語科目の2つのクラスで行われた。1つは非英語専攻者対象のクラスで、もう1つは英語専攻者を対象とするクラスであった。2006年の研究では、トレーニングは関西国際大学1年対象の必修英語科目の3つのクラスで行われた。対象クラスのうち2つは非英語専攻者対象のクラスで、残りの1つは英語専攻者を対象とするクラスであった。

参加者に行った事前のアンケートでは、長期(6カ月以上)に海外に在住したことがある者、大学の授業以外に集中的に(週に2回以上)英語を学んでいる者はいなかった。また、母国語(日本語と中国語(2名のみ))と英語以外の言語が話せるという者もいなかった。

調査の結果、2005年度の研究では超分節音的特徴の伸びがほとんどの学習者で見られ、初級者では分節音の発音の向上も見られた。しかし2006年の研究では初級者が超分節音的特徴・分節音ともに向上しただけで中級者も上級者も発音の向上が見られなかった。そのことから、トレーニング時のテキストの存在とテキストの意味理解の確認がシャドーイングトレーニングにおける発音、特に超分節音的特徴の上達に大きな影響を与えていることが示唆された。そして、シャドーイングトレーニングは初めて出会う学生にとっては大変難しく、十分な準備期間と授業内での指導が必要であることが分かった。その上で学習意欲を促進し継続させるためには、学習効果のフィードバックや楽しく取り組める工夫なども必要であることが指摘された。

#### 4. 本研究の課題

本研究では、佐々木他(2006, 2007)の結果を受け、以下の研究課題を明らかにすることを目的とした。

- 1) 文字テキスト+意味確認のあるなしでは学習者はどちらを困難だと思うのか。
- 2) シャドーイングトレーニングによって学習者の英語に対する感情は変化するのか。
- 3) シャドーイングトレーニングへの積極的な参加を促す手法はあるのか。

すでに発音訓練としてのシャドーイングトレーニングに関しては先行の研究で論じているので、アンケートの結果を基にモチベーションへの影響を考察する。

## 5. 結果と考察

### 5.1 事前アンケート

トレーニング開始前に Pre-Test と同時に実施したアンケートの結果を表 1～3 に示す。未回答の者や Post-Test を受けていない者の回答はあらかじめ省いてある。

表 1 英語学習の好き嫌い

「英語学習は好きですか」(単位：人)						
	嫌い	どちらかという と嫌い	どちらでも ない	どちらかという と好き	好き	sum
2005 年	8	9	13	11	13	54
	15%	17%	24%	20%	24%	
2006 年	17	16	17	14	11	75
	23%	21%	23%	19%	15%	
合計	25	25	30	25	24	129
	17%	16%	17%	14%	11%	

表 2 英語学習で特に得意な分野

「英語学習で特に得意な分野を全て選んでください」(複数回答 単位：人)					
	Reading	Listening	発音	会話	単語学習
2005 年	13	9	10	4	8
2006 年	23	13	9	9	9
合計	36	22	19	13	17

表 3 英語学習で特に苦手な分野

「英語学習で特に苦手な分野を全て選んでください」(複数回答 単位：人)					
	Reading	Listening	発音	会話	単語学習
2005 年	19	37	32	26	27
2006 年	37	51	54	43	49
合計	56	88	86	69	76

英語専攻者と非英語専攻者を混雑させて集計しているためでもあるが、英語学習への好悪は「嫌い」に偏ることなく均質に分散している。2005 年の結果のほうが英語学習を肯定的に見る者がやや多いのは、対象者に占める英語専攻者の割合が多いからだと思われる。

英語学習に得意な種目を持つと回答した者は少ないが、全体の三分の一近くの者が Reading を得意なものとして挙げている。得意種目に反して、不得手な種目には約半数の者が回答している。Listening と発音に不得手が多いのは Reading を得意とする者が多いこととの裏返しで、大学入学前の英語教育で「聞く話す」より「読む書く」が強調されてきた結果と考えられる。

## 5.2 事後アンケート

2005年には4週間のトレーニング後・2006年には10週間のトレーニング後に Post-Test とともにアンケートを実施した。その結果を表4-11に示す。今回も未回答の者や Pre-Test を受けていない者の回答はあらかじめ省いてある。そのため図表によっては全体の総数が少ないものがある。

表4 シャドーイングトレーニングに対する態度

「シャドーイングトレーニングに積極的に取り組みましたか」(単位：人)						
	大変頑張った	少しは頑張った	どちらとも言えない	あまり頑張らなかった	全く頑張らなかった	sum
2005年	6	8	15	22	3	54
	11.1%	14.8%	27.8%	40.7%	5.6%	
2006年	6	32	7	25	5	75
	8.0%	42.7%	9.3%	33.3%	6.7%	
合計	12	40	22	47	8	129
	9.3%	31.0%	17.1%	36.4%	6.2%	

表5 シャドーイングトレーニングの楽しさ

「シャドーイングトレーニングは楽しくできましたか」(単位：人)						
	大変楽しかった	楽しかった	どちらでもない	楽しくなかった	全く楽しくなかった	sum
2005年	4	10	25	10	5	54
	7.4%	18.5%	46.3%	18.5%	9.3%	
2006年	5	22	31	14	3	75
	6.7%	29.3%	41.3%	18.7%	4.0%	
合計	9	32	56	24	8	129
	7.0%	24.8%	43.4%	18.6%	6.2%	

表6 シャドーイングトレーニングの難易度

「シャドーイングトレーニングは難しかったですか」(単位：人)						
	大変難しかったです	難しかったです	どちらでもない	難しくなかった	全く難しくなかった	sum
2005年	21	27	3	2	1	54
	38.9%	50.0%	5.6%	3.7%	1.9%	
2006年	12	47	11	5	0	75
	16.0%	62.7%	14.7%	6.7%	0.0%	
合計	33	74	14	7	1	129
	25.6%	57.4%	10.9%	5.4%	0.8%	

表7 シャドーイングトレーニングによる発音への効果

「シャドーイングトレーニングで発音の向上に効果があったと思いますか」(単位：人)						
	大変効果があつた	少しは効果があつた	どちらともいえない	あまり効果がなかった	全く効果がなかった	sum
2005年	3	27	17	7	0	54
	5.6%	50.0%	31.5%	13.0%	0.0%	
2006年	6	43	16	9	1	75
	8.0%	57.3%	21.3%	12.0%	1.3%	
合計	9	70	33	16	1	129
	7.0%	54.3%	25.6%	12.4%	0.8%	

表8 シャドーイングトレーニングによる英語のリズムやイントネーションへの効果

「シャドーイングトレーニングで英語のリズムやイントネーションが良くなったと思いますか」 (単位：人)						
	大変効果があつた	少しは効果があつた	どちらともいえない	あまり効果がなかった	全く効果がなかった	sum
2005年	3	28	13	9	1	54
	5.6%	51.9%	24.1%	16.7%	1.9%	
2006年	5	38	23	5	3	74
	6.8%	51.4%	31.1%	6.8%	4.1%	
合計	8	66	36	14	4	128
	6.3%	51.6%	28.1%	10.9%	3.1%	

表9 シャドーイングトレーニングによる語彙力の効果

「シャドーイングトレーニングで語彙力がついたと思いますか」(単位：人)						
	大変効果が あった	少しは効果 があった	どちらとも いえない	あまり効果 がなかった	全く効果が なかった	sum
2005年	2 3.8%	13 24.5%	20 37.7%	15 28.3%	3 5.7%	53
2006年	2 2.7%	20 27.0%	31 41.9%	17 23.0%	4 5.4%	74
合計	4 3.1%	33 26.0%	51 40.2%	32 25.2%	7 5.5%	127

表10 シャドーイングトレーニングによるリスニングの効果

「シャドーイングトレーニングでリスニング力がついたと思いますか」(単位：人)						
	大変効果が あった	少しは効果 があった	どちらとも いえない	あまり効果 がなかった	全く効果が なかった	sum
2005年	1 1.9%	24 45.3%	18 34.0%	8 15.1%	2 3.8%	53
2006年	9 12.2%	36 48.6%	23 31.1%	4 5.4%	2 2.7%	74
合計	10 7.9%	60 47.2%	41 32.3%	12 9.4%	4 3.1%	127

表11 シャドーイングトレーニングでリーディング力がついたと思いますか

「シャドーイングトレーニングでリーディング力がついたと思いますか」(単位：人)						
	大変効果が あった	少しは効果 があった	どちらとも いえない	あまり効果 がなかった	全く効果が なかった	sum
2005年	4 7.5%	18 34.0%	20 37.7%	9 17.0%	2 3.8%	53
2006年	3 4.1%	28 37.8%	32 43.2%	7 9.5%	4 5.4%	74
合計	7 5.5%	46 36.2%	52 40.9%	16 12.6%	6 4.7%	127



2006年度のほうがテキストなしのため作業が困難であると考えられるにもかかわらず、表4で「頑張った」と答えた者が全体の半分も存在する。これはフィードバックが毎回返ってくるのが励みになり困難なトレーニングを積極的にこなしていったためだと考えられる。

表5では「どちらでもない」が4割を占めているが、「楽しかった」と回答した者が「楽しくなかった」と回答した者よりもやや多い。「楽しかった」と回答した者より表4の「頑張った」と回答した者が多いのは、「楽しくなかった」けれども「頑張った」者がいるということを示唆している。

表6から学習者にとって、「テキストを見ない」「内容確認をしない」は学習者の困難を増やしているわけではないことがわかる。ただし、学習者は「テキストと内容確認なし」がより困難であると思っていないにもかかわらず、先行研究で計測した Pre-Test から Post-Test への得点の伸びた人数は、「テキストと内容確認あり」の2005年のほうが多い。

6割の者が発音(分節音)の向上、5割の者がリズムやイントネーション(超分節的特徴)の向上を実感している。その他の部門でもかなりの割合でシャドーイングトレーニングの効果を学習者達は実感している。

2006年のアンケートのみに記載した質問の結果を表12に示す。

表12 シャドーイングトレーニングによる英語学習に対する意識の変化

「シャドーイングトレーニングをしたことによって英語学習に対する意識の変化がありましたか」					
(単位：人)					
前より嫌いになった	前と変わらず嫌い	前と変わらずどちらでもない	前と変わらず好き	前より好きになった	合計
3	12	47	18	19	99
3.0%	12.1%	47.5%	18.2%	19.2%	

「前より嫌いになった」者が3%いることに対して「好きになった」者が4割弱いるということから、シャドーイングトレーニングが英語学習への関心を持つよい契機になりうるということが示唆される。表5において「楽しかった」という答えがあまりなかったにもかかわらず「好きになった」という回答がこれだけあるということは、つらい作業だが良い意味の刺激がシャドーイングトレーニングを通じてもたらされ、その結果として英語学習に興味を持つことになったと考えられる。

## 6. おわりに

本研究で明らかにしようとした3つの項目について、その結果をまとめる。

### 1) 文字テキスト+意味確認のあるなしでは学習者はどちらを困難だと思うのか。

当初の予想とは異なり、文字テキストと意味確認の有無に関わらずシャドーイングトレーニングは難しいと感じている者が多い。もともと言語知覚・生成部分に大きな負荷をかける作業なので「難しい」と感じてしまうのは当然であろうが、導入部分でもっとわかりやすい平易な説明を試みるなどの工夫が必要である。

### 2) シャドーイングトレーニングによって学習者の英語に対する感情は変化するのか。

「難しい」と答えているにもかかわらず、「英語が好きになった」と答える者が多かったのは、シャドーイングトレーニングが良い刺激になり苦手な英語学習への関心を持たせるのに適切であることを示唆している。「嫌いになった」という答えがほとんどないことから、語学に関する関心を高める効果が認められる。

### 3) シャドーイングトレーニングへの積極的な参加を促す手法はあるのか。

トレーニングの効果を自覚している者が多数いるので、トレーニング毎の自分の上達がわかりやすい手法が必要である。自己の上達がわかりやすいトレーニング時のモニタリングやトレーニング毎に録音した音声にフィードバックをかけることが積極的な参加につながると考えられる。今後は授業時以外の自習時にトレーニングを進んで行う手法も工夫する必要がある。

※本研究は、関西国際大学コミュニケーション研究所のプロジェクト研究費を受けている。

## 参考文献

- 佐々木 緑、白木 智士 (2006) 'Effects of shadowing on pronunciation training' 関西国際大学  
コミュニケーション研究所 コミュニケーション研究叢書 第4集.
- 佐々木 緑、白木 智士 (2007) 'The effects of shadowing training on pronunciation improvement'  
関西国際大学コミュニケーション研究所 コミュニケーション研究叢書 第5集.
- 玉井 健 (2005) 『リスニングの指導法としてのシャドーイングの効果に関する研究』 風間書房.
- 柳原 由美子 (1995) 「英語聴解力の指導法に関する実証的研—シャドウイングとディクテーション  
の効果について—」 *Language Laboratory*, 32, 73-8
- 山根 繁 (2004) 「音読が学習者のプロソデリーに与える効果—リピーテリングとシャドーイング」  
外国語メディア学会(LET)第44回全国研究大会発表